

プロジェクト課題活動実績

課題名：南すおう地域施設園芸の推進

柳井農林水産事務所農業部 前岡課長、森江主査、河村主査、森弘主任、小林技師

<活動事例の要旨>

施設園芸の推進を図るため、先行していちごの新規就農者の確保に向けた受け皿づくりに取り組んだ。就農前研修の研修用ハウスの設置について、生産部会の会員所有ハウスの活用ができないかアンケート調査により把握した。この結果、4戸のハウスの一部が利用できるようになった。研修等の受入体制については、研修受け入れ先の会員が指導農家となり、市町やJA等が運営支援していくことで合意された。研修体制が整ったことで就農者募集活動を積極的に行えるようになり、今回初めて部会と関係機関が一体となって、いちごのオンラインツアーと就農相談会を開催した。

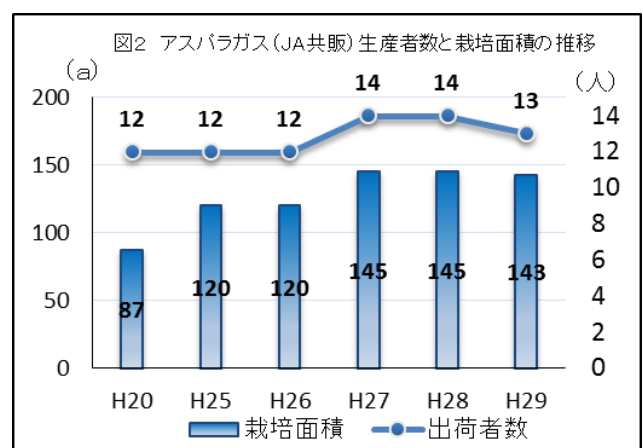
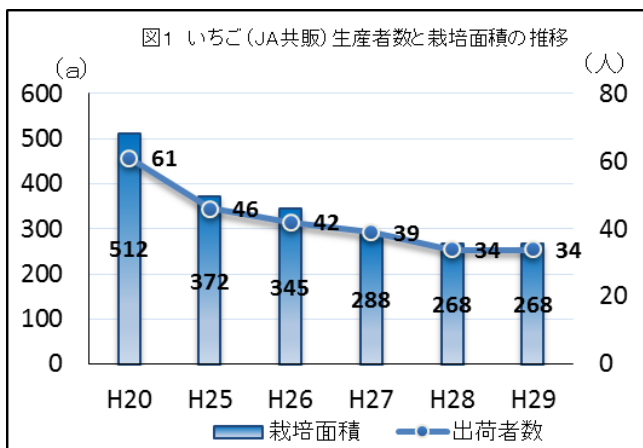
1 普及活動の課題・目標

(1) 課題

南すおう地域のいちごは生産者の高齢化により栽培面積が激減している。また、アスパラガスは集落営農法人が栽培を開始しているが個人生産者の減少により面積は伸び悩んでいる。

このため、将来の施設園芸の担い手を確保し、産地振興を図るため、「いちご」と「アスパラガス」について具体的な実践項目を示した「南すおう地域施設園芸振興プラン」を作成した。

このプランに基づき、研修生の受け入れ促進や模擬経営研修の実践、就農に向けた農地の確保や施設整備等の支援を強化することとし、令和3年度は「いちご」に関して関係機関と連携しながら、実践的に研修できるハウスの整備に向けて活動を行った。



(2) 活動対象

柳井市、田布施町、平生町、光市、JA山口県南すおう統括本部、JA山口県南すおういちご部会、

(3) 目標

- ・研修施設の運営・研修体制（案）の作成
- ・研修及び生産ハウスの整備内容（案）の作成
- ・研修希望者募集計画の作成

2 普及活動の内容

(1) 南すおう地域広域研修ハウスの設置への検討

J A、4市町、柳井農林水産事務所、周南農林水産事務所の担当で定期的な会議を設定し、まずは広域での研修体制の協議を重ねた。

農林水産事務所から県外事例等を含め様々な提案をしたが、いちごで進めることや研修生がいない状況での具体的な事業導入等の検討も理解も得られず、4市町すべての合意を得ることができなかった。

部会へも広域研修ハウス設置構想を提案し、設置することは賛成されたが、部会による運営や整備費負担の合意を得られず「研修ができてでも就農後の農地、初期投資の軽減をどう考えるのか？」等の現状の受入体制の不十分な点の指摘を受けた。

協議を重ねた結果、南すおう地域として今できる研修体制としては、研修ハウスの整備費を低減しつつ、指導効果を上げる体制として「指導農家のハウスを一部研修ハウスにする。」という結論に達し、部会に再度提案することにした。

そのため、いちご農家に対して、研修受け入れ意向等のアンケートをJ A、市町とともに聞き取り調査を実施した。この調査により、部会員の今後の経営意向の把握、雇用や経営継承の見込みのある部会員、研修ハウス設置が可能な部会員の把握ができた。また、部会員が新規栽培者確保に対して協力的であることを市町が理解し、また、部会員からの研修内容のアイデアも出された。

(2) 新規就農者の募集活動の実施

近年、いちごではほとんど就農相談がなく、就農者の受入体制を具体的に検討していくためにも就農希望者（研修生）を確保することが先決と考え、やまぐち農林振興公社の産地オンラインツアーの参加を誘導した。令和3年度は南すおう地域だけで産地オンラインツアーを誘導・実施し、部会役員も相談会に参加を依頼、新規就農者のほ場からライブ中継する等ツアー参加者に対して産地P R方法も強化した。



写真1 オンラインツアー（相談会）の状況

また、山口県でも地名度が低い南すおう地域をP Rするため、柳井農林水産事務所農業部公式Twitterを立ち上げ「南すおう地域のいちご産地」の情報発信も始めた。

3 普及活動の成果

(1) 就農相談者等の増加、研修候補生の確保

他産地との合同産地オンラインツアーでは、南すおう地域に興味のある参加者は19名のうち3名だけであった。しかし、南すおう地域のみでの産地オンラインツア

一を実施した結果、12名もの参加があり関係機関も手応えを感じたことから今後も続けていくことで合意した。

いちごでの相談者は令和元年まではほとんどなかったが、令和2年以降相談者が増加傾向であり、そのうち1名が週1回の作業体験を実施しており、具体的に就農に向けて話が進んでいる。

表1 いちご就農相談者数の推移

項目	H29	H30	R1	R2	R3
全相談者数	0	1	0	3	4
内地域外相談者数	0	1	0	2	3

(2) 南すおう地域広域での研修体制の確立

研修ハウスを主とした研修体制が整備することができた。具体的には、4名の部会員それぞれのハウスを一部研修ハウスとして位置付け、市町中心に運営を関係機関が支援していくことで部会と合意できた。なお、各市町の研修ハウス設置に係る部会への支援、運営の役割分担については研修生が確保できた時点で検討することとなったが、4市町で統一した取組にすることで合意した。

また、4市町合同での募集活動や同じ研修内容のPRをも行えるようになった。

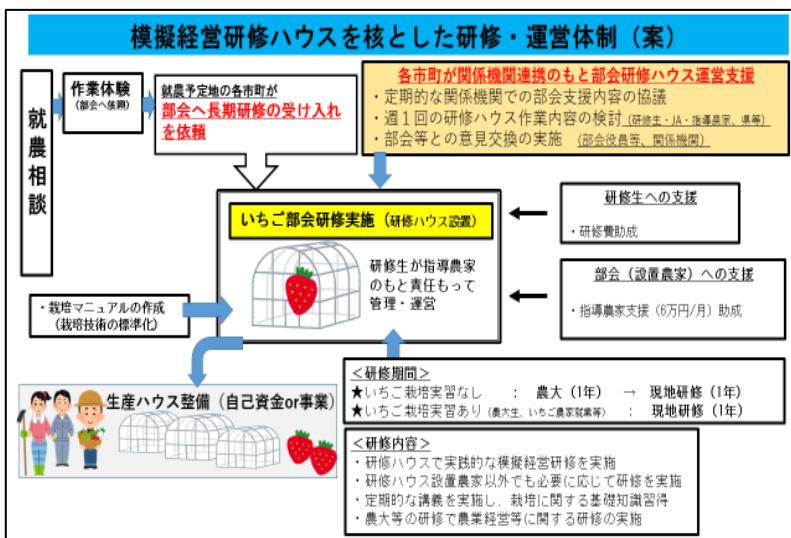


写真2 研修・運営体制案

山口県南すおう地域で一緒にいちごを作ませんか？

新規就農者募集中！

いちご部会と行政機関が連携し、地域全体でガッツリサポートします！

- 一人一人にあった研修内容を、市町、JA、県が指導農家や研修生とともにコーディネートします。
- 研修ハウスで自分の力による実践的な研修ができます。先輩農家がすぐ横で教壇に立っているので、疑問はすぐに解けることができます。
- JAのいちご栽培講座「いちご会」に参加できます。
- 先輩農家の栽培を見学したり基礎知識を学ぶことができます。
- 農科大学校等で農業経営等の研修も受けることができます。

初心者の方でも安心して研修！

求める人材

- いちご栽培を主体に専業で行う意欲がある方
- 南すおう地域の市町で就農・定住する方
- 農業経験が無い場合、まずは体験研修から始めることができる方
- 就農予定時の年齢が概ね20歳未満の方
- いちご部会の活動に積極的に参加できる方
- 研修期間中に生活できる自己資金がある方 等

※就農先の市町により、詳細な要件は異なります。就農相談時に詳しい内容をご説明します。

写真3 オンラインツアーパンフレット

(3) 就農スタイル等ごとの就農フローの整理

部会員等への聞き取り調査等により、空きハウスの情報や経営移譲、雇用意向がある部会員もいることが把握できた。また、研修拠点を4カ所設置することとなり、就農希望者にあった研修場所や就農スタイルを提案することが可能となった。

(4) 市町・JA・部会の積極的活動の機運向上

就農相談者に対して「いちご」を推進品目として積極的に提案しなかった市町が「い

ちご」であれば充実した研修の実施、地域全体でのバックアップがあること等自らPRする等積極的になってきた。これは、いちごであれば経営安定でき受入体制のある品目だと認識したこと、JA自らが募集活動の継続を提案する等の意欲が見えてきたためと思われる。

部会もJAや行政が担い手確保に取り組み始めたことにより、募集活動や研修受入れを部会として、実施し、募集活動にも関与するようになった。

このように、JA、部会、行政等と一体となった「いちご就農者の確保」への機運が高まり、受入体制が徐々に確立できてきたことは大きな成果と言える。

4 今後の普及活動に向けて

(1) いちご就農希望者（研修生）の確保

産地ツアーやガイダンス等を市町・JAが自主的に継続し、SNS等も活用しながらで募集活動を行い、研修生を確保していく。

(2) 就農時の農地・住居の確保、施設整備等に係る支援策の検討

農地・住居の確保、就農前研修、施設整備をパッケージとして提供できるよう市町ごとに具体的な活動を誘導していく。

(3) 若い世代へのいちご就農促進

資金力のない若者でもいちごで就農しやすい環境（雇用後自立就農や経営移譲等）、仕組みづくりを検討していく。

(4) 広域での定期的な会議の継続

受入体制確立に向け、残された懸案事項の多くはそれぞれの市町が単独で検討することになるが、広域での定期的な会議を継続し、各市町が情報交換することで相乗効果を図り、各市町の受入体制の充実を図る。